

【部会名：相談支援部会】

1 これまで検討した課題への取組みについて

※相談支援部会では、乳幼児期から就学、就労等ライフステージにおいて、支援機関等が変わることで、本人の情報が途切れないようにするとともに、関係機関において情報が共有され、一貫した支援が提供される仕組み作りをすすめています。

(1)

課題	ライフステージに関わらず、障がい福祉を必要とする方の情報が途切れない支援の仕組みを考える。
目的	まずは学齢期における途切れない支援をすすめるため、学校関係者、行政、地域の相談支援事業者が互いの支援や役割について理解を深める。
取組み	指導課と話し合いを持つことで児童の相談を担う学校関係者により、福祉サービス等の理解に差があり、何らかの周知が必要であることが明らかとなりました。8月開催のスクールソーシャルワーカー研修に部会として行政、委託相談事業所担当者が参加し、途切れない支援のために何が出来るかを話し合います。

(2)

課題	吹田市における障がい者の相談支援体制がわかからない。
目的	相談支援体制を少しでも分かりやすくする。
取組み	まずは学齢期の本人、ご家族、学校関係者、支援機関向けの広報ツールとしてチラシ作りを始めています。

(3)

課題	相談支援専門員が不足している。経験も足りない。
目的	福祉サービス利用時に利用者が困らないように相談支援体制を強化。
取組み	まずは計画相談事業所の相談支援専門員向けの研修会を定例開催し、講習および現場で困っていることなど情報を共有し、福祉サービス利用時の支援体制をより良くするように努めている。

2 部会の構成メンバー

機 関	団体名	担当者（☆部会長）
特定相談支援事業所	シード	☆山口 宗寛
	生活支援センターあおぞら	柏木 修
	障害児・者地域生活支援センターめい	大西 美佳子
	すいた自立支援センターねばーらんど	和田 真美
	地域生活支援センター北千里以和貴	信田 涼
就業・生活支援センター	すいた就業・生活支援センター	豊田 真輝
吹田市	基幹相談支援センター	景山 昭宏
	障がい福祉室	嘉儀 輝子
	千里NT地域保健福祉センター	愛宕 史恵
大阪府	大阪府自立相談支援センター	田中 しのぶ

3 開催状況

月 1 回 第 2 火曜日

4 今後の予定

途切れない支援を強化するための取り組みを継続して進める。

【部会名：日中活動部会】

1 これまで検討した課題への取組みについて

(1)

課題	障がい者の日中活動先における課題共有、解決に向けた検討等の場がないため、日中活動先の支援者における工賃向上の取組みが行き詰っている。
目的	工賃検討部会として工賃向上の課題に着目し活動を行ってきましたが、利用者の日中活動支援、例えば障がい種別の多様化への対応 重度の利用者への支援とのバランスなどの課題がしばしば取り上げられてきました。これら課題の共有と分析、課題解決に向け取り組むことで、利用者の日中活動の充実を図るとともに、工賃向上に関する課題の検討が可能となります。
取組み	それぞれの事業所で現在の課題を集約し、共通の課題として、「利用者支援・工賃・支援者の課題」などがあげられました。今後課題分析が必要とされていますが、課題が工賃に限らず多岐にわたることや工賃を支給していない事業所の参加を呼び掛けるため、専門部会の名称を「日中活動部会」に改め運営委員会において承認を得ています。

(2)

課題	工賃向上への取組み
目的	工賃向上に向け新たな仕事の獲得
取組み	6月27日 吹田市優先調達推進委員会に参加し、Happy&SMILE が製品の紹介、商品購入のお願いをしています。また今後の販売窓口を Happy&SMILE にすることにより、事業所ごとでは受けきれなかった大口の注文への対応が可能になりました。

2 部会の構成メンバー

機 関	団体名	担当者
市内障がい者事業所等	16 団体	
障がい者事業所	工房ヒューマン	藤井 (部会長)
障がい者事業所	ブルーリボン	下郡 (事務局)
障がい者事業所	ぷくぷくワールド	坂本 (事務局)
障がい者事業所	サフラン	本宮 (事務局)
障がい者事業所	工房ヒューマン	中村 (事務局)
障がい者事業所	Nigella	水谷 (事務局)
相談支援事業所	めい	大西 (事務局)

3 開催状況

毎月第 1 月曜日 18:30～

4 今後の予定

- ・日中事業所の課題への取り組み方を検討する
- ・研修等の実施

【部会名：居住支援部会】

1 これまで検討した課題への取組みについて

(1)

課題	グループホームの消防設備課題や防災課題に対して、どう対応していくか。
目的	吹田市内の全てのグループホームが、無事に消防対応が出来ること
取組み	消防課題プロジェクトで課題検討。 ① 部会としてのグループホームの消防課題アンケートを行う。 （アンケート結果報告については、別途、本全体会にて実施） ② 吹田消防署との消防課題での懇談会の開催。③吹田市へ補助金要望も。 ④消防課題について、平成 30 年 4 月迄の見通しを付けること。

(2)

課題	高齢期を迎えての介護保険課題。グループホーム等の地域生活をどう進めるか。
目的	高齢期の支援課題の検討と、制度的な課題を整理し改善提案を検討する。
取組み	高齢者施設見学予定。介護保険制度学習会予定。 今後、高齢障害者支援の先進的な地域・施設の見学。

(3)

課題	グループホームを増やす為にも、支援職員をどう確保して育成していくか。
目的	人材不足が死活問題。もっと暮らしの場への職員が増えないと事業閉鎖になる。
取組み	今年度、まだ検討中。合同の職員募集を行いたい・・・

2 部会の構成メンバー

機 関	団体名	担当者
市内全グループホーム担当	18事業所	毎回、12-15名程の参加
グループホーム	さつき福祉会ホーム事務局	☆世話人代表 伊藤成康
相談支援・グループホーム	ぷくぷく福祉会ネバーランド	世話人 足立雅美
精神相談・グループホーム	のぞみ福祉会エスペランサ	世話人 中山恭子
相談支援	さつき福祉会あおぞら	世話人 西沢富子
日中支援・グループホーム	にげら	世話人 水谷充規

3 開催状況 5/27(金) 7/22(金) 9月開催予定 9/30(金)

4 今後の予定

消防アンケートをまとめる。消防署との懇談会。スプリンクラー設置が必要で、補助があっても厳しいグループホームについての検討を行う。

「みんなのき」と「高寿園」の見学。

【部会名：医療課題検討部会】

1 これまで検討した課題への取組みについて

(1)

課題	障がいのある方が適切に医療を受けるための制度や支援の充実。
目的	障がいにより、医療従事者との適切なコミュニケーションが難しいとの判断から入院の拒否、早目の退院や転院を余儀なくされることがないようにするため。また障がいのあるなしに関係なく、本人が安心して治療を受けていけるようにするため。
取組み	入院時コミュニケーション支援事業の実績確認。平成 27 年度に支給にまで至ったケースについて、利用実態の報告およびそれらについての検討をおこなってきた。グループホームからの申請が多い傾向にあるため、情報提供カード（支援を受ける障がい者の医療等に関する情報シート）を居住部会にて披露し、意見を集約していく。施行前の事業説明会の参加者は多かったものの、件数自体はあまりない。人員をさけるかの問題もあるが、利用状況から再度、事業周知について検討していく必要がある。また情報提供カードの周知方法と活用方法をどのように拡げていくかも課題である。

(2)

課題	こどもの頃からのかかりつけ医の重要性の周知
目的	事業化に向けてのアンケート調査の中で、本人とその家族の中には治療行為を怖がり、受診することが出来ない。なにかあっても市販薬で済ませているとの回答も多数みられた。そのため、こどもの頃から治療行為に慣れてもらうことの大切さ、かかりつけ医の重要性を周知していく必要がある。
取組み	医療課題検討部会において小中学校への聞き取りを実施。相談支援部会において検討が進められている「途切れない支援の仕組み作り」と課題が共通する部分があり、その内容を伝達している。障がいがあっても健康なため、健診等をあまり受けずに医療機関とは疎遠な場合もある。そのため、家族等への啓発が必要と思われるが、方法は部会内にて検討中である。また 18 歳から福祉サービスを利用する際に主治医による意見書が必要になるが、意見書の依頼が一部の病院・クリニックに集中気味になっている可能性があるため、意見書の記載状況の確認をし、課題解決に向けて検討していくことを進めていく。

(3)

課題	医療関係者における障がい者理解の促進
目的	事業についての説明だけでなく、障がいのある方が安心して受療するためには医療関係者における障がいの理解も必要である。医療と福祉が情報を共有し、

	ともに理解を深めるネットワークの構築を目指す。
取組み	<p>入院時コミュニケーション支援事業については医師会の中で 600 部程資料を配布してもらっている。また吹田済生会から学習会についての打診があり、今後、内容の検討を進めていく。</p> <p>部会の構成機関として総合病院で救急もある「徳州会病院」への声掛けを部会からも承認を得たので、保健所の協力を得て進めていく。</p>

2 部会の構成メンバー

機 関	団体名	担当者（☆部会長）
医療機関	吹田市医師会	☆角谷 岳朗
	吹田市歯科医師会	千原 耕治
	済生会吹田病院	戸川 啓史
		川口 真里子
		尾上 淳子
	済生会千里病院	岩間 紀子
	大阪大学医学部付属病院	友國 領子
吹田市民病院	齊藤 健二	
教育・児童機関	吹田支援学校	青木 宏之
大阪府	吹田保健所	門田 繁夫
吹田市	基幹相談支援センター	景山 昭宏
	吹田市障がい福祉室	西本 真紀
ワーキングメンバー	エスペランサ	中山 恭子
	さつき福祉会	伊藤 成康
	ヘルパーステーション MAYO	仁木 恵美
	ねばーらんど	足立 雅美
	北千里以和貴	信田 涼

3 開催状況

年 4 回 第 1 水曜日

4 今後の予定

- ・事業の対象外となってしまう人たちへの支援をどうしていくかの検討
- ・事業の分析・検証
- ・病院・事業所への事業の周知方法の検討
- ・意見書への協力医を増やしていくための分析・検証

【部会名：当事者部会準備会】

1 これまで検討した課題への取組みについて

(1)

課題	障がい者の社会参加促進と障がいの理解を深める
目的	さまざまな障がい者や支援者を対象とした参加型の交流企画を通して、社会参加の促進につなげる。また、参加者同士がお互いの障がいについての理解を深める。
取組み	手ぶらで気楽にバーベキュー交流会(4/16 開催 37 名参加)
内容	これまで室内で行ってきた “しゃべり場” をもっと気軽な気分で参加できるようにバーベキューを行いました。天候も良く、なごやかな雰囲気ですぐに交流することができた。

(2)

課題	日常生活全般における情報交換
目的	障がい者本人が日ごろ考えていることや悩み等を打ち明けることによって親睦を深め、情報交換しながら、参加者のエンパワーメントにつなげる。また、準備会としては企画を通じて当事者のニーズの把握に努め、市政や協議会において、当事者の目線に立った当事者の “生の声” を届けていきたいと考える。
取組み	第 4 回しゃべり場 (7/30 開催 21 名参加)
内容	昨年度から通算して 4 回目の開催となりましたが、参加人数は少しずつではあるが、右肩上がりが増えた。また、肢体不自由、聴覚障害、発達障害、知的障害、精神障害の参加があり、障害種別が多様となったことで、それぞれの立場から見えてくるバリアについて共有することができた。

2 部会の構成メンバー

部会の構成メンバーは障がい当事者が 6 名（全員肢体不自由）
事務局 1 名、その他、相談支援部会の委員が適宜参加

3 開催状況

月 1 回 第 3 木曜日

4 今後の予定

課題	バリアフリーなまちづくり
目的	障害種別によってバリアとなるものは異なるが、様々な障害当事者の視点でららぼーと EXPOCITY 内の共有スペースおよびショッピングモールの利便性、移動円滑性等を調査する。その後、交流会も兼ねた調査報告および意見交換を行うことで、施設内の問題点や改善点を確認する。
予定	バリアフリーチェック&ランチ交流会（10月29日）

課題	日常生活全般における情報交換
目的	障がい者本人が日ごろ考えていることや悩み等を打ち明けることによって親睦を深め、情報交換しながら、参加者のエンパワーメントにつなげる。また、準備会としては企画を通じて当事者のニーズの把握に努め、市政や協議会において、当事者の目線に立った当事者の“生の声”を届けていきたいと考える。
予定	親睦交流会（12月）

【部会名：精神障がい者支援部会準備会】

1 これまで検討した課題への取組みについて（課題検討計画に基づく以下の内容）

(1)

課題	<p>①実際に精神障がい者の使える資源が少ないこと、また福祉サービスの情報が届いていないことで、必要であるのにサービスを使えない場合が多いことについての改善</p> <p>②精神障がいの特性から支援が困難であると感じる事業者が多いことの改善</p>
目的	<p>この課題に取り組むにあたってまず事業者からの聞き取りを行い、準備会から部会に移行した際の解決を図るための優先順位をつける。</p> <p>使える事業所を実質的に増やすことでより多くの情報を届けることができる。（情報を届ける取組みについては部会において検討する）</p>
取組み	<p>昨年度から準備会において行った、指定特定相談支援事業所の相談支援専門員、居宅介護事業所の聞き取りに加え、訪問看護、ACT、病院・クリニック P s w から聞き取りを行った。特に福祉サービスにおいては事業の内容によらず支援の難しさを感じるという意見が多く、医療系サービスは福祉サービスとの連携、役割分担等が難しいという意見が多かった。</p>

(2)

課題	精神保健福祉ネットワーク会議と部会の位置づけ、課題の整理
目的	<p>精神保健福祉ネットワーク会議が部会を兼ねるのではなく、これまで精神障がい者支援の経験が少ない事業所や、課題解決に必要なと思われる機関、事業所等に入ってもらうこと、話をしやすくするための適正な人数で会議を行うことを考え、ワーキングチームを中心に解決すべき課題ごとにフレキシブルに関係機関が集合して話し合うことを考えている。</p> <p>また、ネットワーク会議は今までの連携を継続し、より専門的な話し合いのできる場として、主に地域移行とそれにまつわる課題を中心に提起していくことを念頭に、部会とは別に行うこととした。</p> <p>ただし、課題解決にあたってネットワーク会議の構成だけで十分話し合える時には、ネットワーク会議をその課題解決のための部会のチームとすることも可能とする。特に、今年度の課題検討計画にあげた「③社会的入院の解消と退院するための地域づくり、一般市民への精神障がい者理解促進」についてはネットワーク会議において検討する課題の一つとなりうる。</p>
取組み	整理のための話し合いをおこなっている。

(3)

課題	④多職種連携におけるコーディネートの役割を果たす基幹相談支援センターの充実
目的	精神障がい者支援については医療との関係も切り離すことができず、他の障がいに比べ、様々な機関がチームとして連携することで成り立つことも多い。 ①～③の課題に取り組む中で、基幹相談支援センターの役割もより明確になってくると思われる。
取組み	部会に移行後に課題解決を図る中で明確化していく予定

2 部会の構成メンバー

未定

3 開催状況

ネットワーク会議のワーキング会議を3回に1回準備会として継続中。

6月3日(金) 10:00～12:00 ・ネットワーク会議と部会の位置づけの整理について
・今後部会に移行するにあたって決めておかねばならないことについて

7月26日(火) 16:00～17:00 医療機関、医療系サービスからの聞き取り

4 今後の予定

9月16日(金) 12月2日(金) 3月17日(金)

いずれも 10:00～12:00 吹田保健所にて

【部会名：就労支援部会準備会】

1 これまで検討した課題への取組みについて

(1)

課題	就職者を出した後の利用者確保が難しい
取組み	市内 6 か所の移行事業所と就ポツの合同パンフを作成する
今後の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合同パンフを公共の場所に置いてもらえるようにする。 ・ 市ワーカー、相談支援機関に相談に来た当事者に合同パンフを手渡ししてもらえるように働きかける

(2)

課題	1 昨年度までは大阪府のジョブライフサポーター事業があり、本人登録と本人に合わせた職場開拓を行ってくれていたが事業が終了して本人に合わせた職場開拓機能がなくなった。自事業所での開拓は人的にもノウハウ上も難しく、結果いわゆる重い人が残っている。
取組み	就ポツとして地域共有型訪問型職場適応援助者を模索・検討中であるが予算の裏打ちがなく踏み出せない状況にある

2 部会の構成メンバー

- ・千里作業指導所、コミキャン就労総合センター、ジョブトレーニングセンター大阪、みち、のぞみ共同作業所、パス、就業・生活支援センター

3 開催状況

- ・概ね月 1 回

4 今後の予定

- ・地域共有型訪問型職場適応援助者を具体的に稼働させる方法を検討

【部会名：通学支援プロジェクト】

1 これまで検討した課題への取組みについて

(1)

課題	<p>① 支援学校のスクールバスに乗車できない児童の通学保障。(特に、医療ケアが必要な児童) また、地域の学校では教員が登校の支援をしていることもあるが、医療ケアの児童については教員が対応できない実態がある。</p> <p>② 単発の通学支援を有償あるいはボランティアで対応しているケースもあり、制度化へのニーズが高い。(特に、家族の体調不慮などの場合の支援)</p> <p>③ 保護者の支援力の弱さが課題となり通学できないケース、本人自身の行動障がいにより家族のみでは対応できないケースなど就労保障以外にも必要なケースがある。</p> <p>④ 思春期に親の支援を嫌がり不登校になっているケースがある。</p> <p>⑤ クラブ活動後の下校や自力での登下校のための練習などの支援が必要なケースがある。</p>
目的	通学支援の必要性等、実態をは把握し、制度の必要性及び対象についての検討をしていく。
取組み	<p>ひとりでの通学が困難な障がい児の通学時の安全、就学の機会の確保、そしてやむを得ない理由などにより学校への送迎ができない場合とはどのような場合が想定されるか、通学状況の実態把握を目的とした通学支援等のアンケートを支援学校の家族対象に実施した。【吹田支援学校(小学部 68 人中 64 人・中学部 71 人中 61 人・高等部 79 人中 53 人回収)、摂津支援学校(小学部 26 人中 22 人・中学部 24 人中 21 人・高等部 34 人中 25 人回収)、箕面支援学校(31 人回収)】</p> <p>一方、地域の小・中学校では、教員対象に通学支援等に係るアンケートを実施した。現時点では、支援学校や地域の小・中学校で実施した通学支援等のアンケートの集計が終わり、実態把握や課題を確認している状況である。今後については、他市町村の通学支援の制度を把握した上で、制度化に向けて通学支援プロジェクトとしての方向性をまとめていくことになる。</p>

2 部会の構成メンバー

機関	団体	担当者
特定相談支援事業所	生活支援センターあおぞら	柏木
特定相談支援事業所	障害児・者生活支援センターめい	大西
居宅介護事業所	コスモス吹田	富士野
居宅介護事業所	かすみそうホームケア	渡辺
居宅介護事業所	ケアステーションふくちゃん	福西
放課後等デイサービス事業所	千里丘デイサービス	谷口
就業・生活支援センター	すいた障がい者就業・生活支援センター	天野
吹田市	障がい福祉室	景山・榎本
吹田市	内本町地域保健福祉センター	荒木
吹田市	指導室	杉山・松本
学校	吹田支援学校	若松

3 開催状況

- ・概ね月 1 回程度

4 今後の予定

- ・今後については、他市町村の通学支援の制度を把握した上で、制度化に向けて通学支援プロジェクトとしての方向性をまとめていく。